

# 令和5年度事業計画

学校法人武蔵野大学

## 1. はじめに

現在、学校法人を取り巻く環境は、グローバル化や少子高齢化・情報化の進展により目まぐるしく変化している。また、2020年初旬に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大は、経済や私達の生活に甚大な影響を与えており、未だ収束が見えない状況下において、将来の予測を更に困難なものとしている。

こうした中、本法人はどのような状況下であっても、建学の精神「仏教の根本精神である四弘誓願を基礎とする人格教育」を基本理念に置き、本法人のブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」を具現化する人材育成に向けての歩みを進める。

来るべき2024年の創立100周年を見据えつつ、時代の要請に機動的に対応してデジタルトランスフォーメーション（以下「DX」という。）を推進し、教育研究の質を更に向上させ、教育研究活動を将来にわたり継続的に実施することで、地域や社会に貢献しながら本法人の社会的使命を果たしていくことが求められる。

本法人は、2020年度に「第一次長期計画 -MU VISION 2030- [2020年度～2030年度]」及び「第一期中期計画 [2020～2024]」（以下「中長期計画」という。）を策定し、2021年度に第1回更新を実施した。令和5年度事業計画は更新後の中長期計画の目標達成を視野に入れて、令和5年度に取り組む内容をまとめたものである。

## 2. 各学校及び法人の事業方針

武蔵野大学・大学院	2050 Vision「5つのチャレンジ」 <ul style="list-style-type: none"><li>・ SDGs17目標の達成に向けて、全学的な取組を推進</li><li>・ Happiness Creatorを育成するための響学スパイラルの確立</li><li>・ Creativeな知をカタチにできる人材の輩出及びCreativeな実践者の育成のための環境の整備</li><li>・ Society5.0時代を踏まえた、BYODを活かした響学スパイラル教育の全学推進</li><li>・ 新国際化ビジョンに基づく学部学科でのグローバル人材の育成と多様な学生のための環境とプラットフォームの整備運用</li><li>・ 大学の枠を超えた各種連携の推進及び創立100周年へ向けた卒業生との連携強化</li><li>・ 新たな学部や研究科の設立に向けた準備</li></ul>
-----------	---

武蔵野大学高等学校・中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な進路の実現に向けて、均一で質の高い授業・講習等の実施</li> <li>・ 生徒が主体となって取り組む行事やプログラムの充実</li> <li>・ 新しい図書館のあり方を踏まえた施設の整備</li> <li>・ 民間企業と連携した教育プログラム等の継続</li> </ul>
武蔵野大学附属千代田高等学院・千代田国際中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校との接続を踏まえた高校の教育課程変更</li> <li>・ 国際性豊かなマインドによる質の高い授業の提供</li> <li>・ 求める生徒像に沿った入学者確保のための学校運営（募集広報、教員採用等も含む）</li> <li>・ 校舎の建替えの検討</li> </ul>
武蔵野大学附属幼稚園・慈光保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者及び地域の方々の信頼度、満足度の向上と、募集を意識した講座やイベントの開催</li> <li>・ 社会のニーズに対応した正課の見直し</li> <li>・ 園舎内部の改装や園庭遊具の更新整備等</li> </ul>
武蔵野大学附属有明こども園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域子育て支援プログラムなど募集に結びつく競争力のある教育の実施と成果の可視化</li> <li>・ 社会のニーズに対応した正課の見直し</li> </ul>
法人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建学の精神の普及に資する式典、行事等の充実</li> <li>・ 教育研究、法人業務、スマートインテリジェンスキャンパス（SIC）プロジェクトを包含する「学校法人武蔵野大学DX推進基本計画」に基づくDX化の推進</li> <li>・ 長期人員計画に基づく教職員マンパワーの確保</li> <li>・ 職員向け業務研修新プログラムの開発・導入</li> <li>・ 法人広報戦略に基づく100周年記念事業を軸とした広報展開</li> <li>・ 100周年記念事業各プロジェクト等の推進・長期施設設備等整備計画に基づく改修・更新工事の実施</li> <li>・ 千代田キャンパスのキャンパスマスタープランの策定・推進</li> </ul>

## (1) 各学校の取組

### ①武蔵野大学・大学院

2019年4月に発表した、武蔵野大学 2050 Vision 「5つのチャレンジ」は第一期中期計画の完成年度である2024年に向けて、次の施策を推進する。

#### 「チャレンジ1 自己と世界を問う」

- ・ SDGs17 目標の達成に向けて、全学的な取組を推進する。具体的には、学科・研究科・研究所の17目標における教育研究課題の設定と解決に向けての取組の推進、2024年度に予定する「武蔵野大学 SDGs 白書」の発表を見据えた年次報告書を発行する。
- ・ 教育研究の質を高め、Happiness Creator を育成するため、響学スパイラルの確立を2022年度に開設した「武蔵野大学響学開発センター」を中心に推進する。

#### 「チャレンジ2 未来の世界を創る Creative な実践者の輩出」

- ・ Creative な知をカタチにできる人材の輩出のため、教職員一体となったキャリア形成・就職支援を目指し、キャリアセンターによるキャリア支援の早期化を促進する。
- ・ Creative な実践者の育成に取り組むため、教員が研究に専念しやすい環境の整備（研究時間の確保・インフラ整備・事務サポート体制の充実等）を行い、研究力の向上を図る。

#### 「チャレンジ3 AI世界を先導する MUSIC」

- ・ SI キャンパスビジョンに基づく、響学スパイラル教育・学習に適用できるよう、既存キャンパス・教室・学生 commons 等のリノベーションを行う。また、SI キャンパスの活用支援組織・体制の構築・学生の自主的な活動を支援するコミュニティサービスの強化を行う。
- ・ Society5.0 を踏まえた「響学スパイラル×BYOD」の学修イノベーション推進のため、BYOD 環境を活用した学科別の教育実践の普及を推進、各学科から響学スパイラルと BYOD の取組状況に係る改善点の確認、教育 DX について検討を進める。

#### 「チャレンジ4 Global&Universal」

- ・ 新国際化ビジョンに基づき、世界に羽ばたき、世界を迎え入れる学部学科でのグローバル人材の育成を目指す。
- ・ 海外留学の促進においては、各学科や協定校との連携を強化し、学外 FS やグローバル PBL の開発を実施する。他方、留学生の受入れにおいては必要な支援の調査や環境の整備を推進する。
- ・ ユニバーサルなキャンパス空間と学生支援の推進のため、身体障害、ジェンダー、国籍等多様な立場の学生に寄り添うことのできるキャンパス環境構築のための調査等を行い、キャンパス計画を通じてバリアフリーな施設を創造し、包括的な学生支援のプラットフォームの整備を進める。

「チャレンジ5 MU-GENにつながるInfinite Linking」

- ・ 創立100周年に向けた武蔵野サンガの醸成のため、卒業生の連絡先等の情報把握に努めるとともに、同窓会との連携を深める企画を推進する。
- ・ 本学の教育リソースを活かし、情報教育体験での中高生との連携を推進する。

以上の「5つのチャレンジ」とともに、2023年度に開設するサステナビリティ学科における教育活動の安定的な運営を目指すと同時に、本学のブランドを具現化することが可能な新たな学部や研究科の設立に向けた準備を進める。

## ②武蔵野大学高等学校・中学校

高等学校においては、3つのコースの独自性を更に追求し、可視化できる実績を出していく（本科コースにおいては、武蔵野大学との新たな教育接続の仕組み等も考え、実現に向け努力する）。また、国公立大学や海外大学への受験指導力について、研修等も組み込みながら、更なる研鑽を重ねる。長期休暇中の補習・講習、デジタル教材等の活用方法の検討、外部業者との効果的な連携の模索は引き続き行う。

100周年に向け、そのシンボルとなる図書館の整備を行い、生徒・教職員が主体的に学校全体の熱量を上げていくようにしていく。

## ③武蔵野大学附属千代田高等学院・千代田国際中学校

教員の授業力と協働性の向上のために、更なる授業研究を進める。客観的なフィードバックを得る研修や学びの質を高める教材の選定を行い、教育スキルを高め、国際性豊かなマインドをまずは全教職員が身につける。さらに、校舎の建替えについては、「学院キャンパス施設等検討委員会」において策定予定の法人全体の施設設備計画に従い、現在の校舎の修繕計画などを再検討しながらも、充実した教育環境整備を図る。

また、法人合併後も実態として統合されていない業務内容については、本来の分掌へと修正を図っていく。

中学校と高等学校の教育的接続のために、高等学校の教育課程の変更に着手する。

## ④武蔵野大学附属幼稚園・慈光保育園

園長のリーダーシップの下、幼稚園に対する保護者及び地域の方々の期待感を生み出すような取組を行う。在園児に対しては、信頼度、満足度を向上させ、期待一満足の良好な関係状態を常に意識する。保護者及び地域の方々に対しての子育て応援講座を引き続き行う。課外活動授業の取組については、それぞれのプログラムをさまざまな角度から検証し、場合によっては内容の変更も行う。園舎内部の改装や園庭遊具の更新整備等を行うことで施設の充実も図る。また、保育園は引き続き定員を充足させるとともに、園児の成長につながるきめ細やかな保育を企画・実施する。

正課のあり方について、その成果や外部への発信も考慮しながら新しい教育内容の構築を行う。

## ⑤武蔵野大学附属有明こども園

就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律、子ども・子育て支援法及びその他の関連法令に従って、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、就学前の子どもに対する教育及び保育を一体的に行う。そのために、園内外で研修を実施し円滑な運営に努め、教育環境の整備を行う。また、安定した定員充足率を確保するために、わくわくプログラムや地域子育て支援プログラムなどの事業については、その成果について検証を行うとともに、地域から期待される新たな教育プログラムの導入も検討する。

正課のあり方について、その成果や外部への発信も考慮しながら新しい教育内容の構築を行う。

## (2) 法人の取組

法人の絶えざる改革と安定した成長・発展を支える基盤として、引き続き「法人ガバナンスの改善・強化」及び「内部統制の整備」に取り組む。併せて、改革と発展の原動力として「法人・教学のDX化」及び「創立 100 周年記念事業 10 のプロジェクト」を軸に、以下を重点として取り組む。

- ・ 建学の精神の普及に資する式典、行事等を引き続き充実させていく。
- ・ ガバナンス改善及びコンプライアンス遵守に組織的に対応するため規程の整備を進める。
- ・ 2022 年 4 月に導入した職員の新人事制度に合わせ、職員の活性化と育成のため、新研修プログラム及び人事評価手法を開発し、人事制度、研修、人事評価が一体となる仕組みを構築する。
- ・ 教職員の長期人員計画に基づき積極的に人員確保を進める。
- ・ 「学校法人武蔵野大学DX推進基本計画」に基づき、教育研究のDX化、法人業務のDX化及び創立100周年記念事業であるSICプロジェクトの各計画を推進する。
- ・ 法人広報戦略に基づき、創立 100 周年記念事業の情報発信を軸として積極的な内外広報を展開し、認知度及びブランド力の向上、並びに法人内各部署における広報意識の醸成に取り組む。
- ・ 2024 年の創立 100 周年記念事業の各プロジェクト等を着実に遂行する。
- ・ 長期施設設備整備計画に基づき、武蔵野キャンパスでは、大学図書館及び武蔵野中高図書館の建替計画を策定する。有明キャンパスでは、教室増設のため施設内装を改修する。また、千代田キャンパスでは、本館の内外大規模改修及び新館の教室等の改修を実施するとともに、長期的な施設活用を検討し、キャンパスマスタープランを策定する。
- ・ 財政の安定化に向けたバランスのとれた予算の編成と執行、新たな収入源の確保及び積極的な募金活動により、財政基盤の強化に努める。
- ・ 安心安全を見据えた災害及び事故に起因する危機管理力を向上させるため、新型コロナウイルス感染症拡大状況に対応した「行動指針」の汎用化を検討するとともに、システムトラブル時の対応力を強化し、全学的なBCPを改定する。

### 3. 各学校及び法人の事業計画

[武蔵野大学・大学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和5(2023)年度事業計画	
チャレンジ1	自己と世界を問う	SDGsの17目標に向けての全学的な取組の推進	SDGsの17目標に向けての全学的な取組を通じた建学の精神の具現化			4～8月 資料収集 9月 制作開始 3月 発行	
			学科・研究科・研究所の17目標における教育研究課題の設定と解決に向けての取組	○	武蔵野大学SDGs白書	6月～7月ブランドビジョン協議会（成果検証）にて、SDGs実行目標2022の目標、取組内容、振り返りの妥当性を検証し、2024以降の計画修正を行う。また2022年次報告書の内容をブラッシュアップした2023年度年次報告書を作成し、全学展開	
			国内外の研究機関との連携深化と国際的な交流活動の拡大		国際的シンポジウムの参加研究者数	第8回しあわせ研究所シンポジウムを開催	
		自己の生き方を問いつつHappiness Creatorとして歩む志、能力の確立	「世界は幸せか」という問いから始まる学修の仕組み構築	○	Happiness Creator目標の設定（授業レベルの教育改善）	・10月～3月授業アンケートを基にした新カリキュラム（2年次＝プレゼミ等）の検証、調整 ・新カリキュラムの検証を踏まえてのHappiness Creatorの目標調整	
			Happiness Creatorを育成するための武蔵野メソッド（響学スパイラル）の開発		響学スパイラル取組授業数	・響学スパイラルを活用した授業改善に対する取り組みのインセンティブの設定（授業改善小委員会） 10月～11月：授業改善トライアル公募	
			全学部学科・研究科におけるFDの徹底を通じてのアクティブラーニング、反転授業、ICT活用等による授業改善	○	学科・研究科FD実施率	・各学科にて響学スパイラル等に関する学科FDを実施してもらい、年度末に取りまとめを実施	
					アクティブラーニング等に関する目的別FD開催件数	・アクティブラーニング等に関する学内外の先駆的な実践者、研究者を講師とした目的別FDの企画・開催	
			生涯学び続ける学習基盤の確立			1科目当たりの予復習時間	・10月～3月における授業アンケート（前期分）を基にした学科FDを実施 ・各アンケート調査・アセスメントでの検証 ・ブランドビジョン協議会での検証
						予復習時間6時間以上の学生割合	・11～12月に学生生活実態調査を実施、集計を行い、教育改革推進会議及び学部長会議にて報告 ・ブランドビジョン協議会での検証
						授業理解度	・10月～3月における授業アンケート（前期分）を基にした学科FDを実施 ・各アンケート調査・アセスメントでの検証 ・ブランドビジョン協議会での検証
					授業主体的取組	・10月～3月における授業アンケート（前期分）を基にした学科FDを実施 ・各アンケート調査・アセスメントでの検証 ・ブランドビジョン協議会での検証	
					入学前・初年次教育による武蔵野の学びへのスムーズな移行	退学率	・入学前・初年次教育の再構築、各学科における検証（必要に応じた学則変更等の対応（円滑な高大接続に資する初年次学科科目の新設））

[武蔵野大学・大学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和5(2023)年度事業計画	
チャレンジ2	未来の世界を創るcreativeな実践者の輩出	学修者本位のカリキュラムの構築と教育力の向上	共通基礎課程必修単位数を低減し、学びの目的に応じた選択科目を配置		2021年度未来共創プログラムの完成(学科(カリキュラム)レベルの教育改善)	2021年度未来共創プログラム(INITIAL科目)の3年目実施学びの目的に応じて選択科目新設等を議論し、必要に応じて具体的科目設計を策定	
					2021入学者のDP2	4学期にルーブリックで測定	
			各学部学科、研究科の学修者本位のCPへの見直し	○	改善策の実施	3ポリシー基本方針に沿った学科・研究科のDP・CPの見直し案を集約し、令和5年5月に教育改革推進会議に上程	
			メインメジャーとサブメジャーとの融合的カリキュラムに合わせた学内組織の改編	○	サブメジャーの開講コース数	2コース設置に向けた具体的準備 「仏教文化を学ぶ副専攻」については、5月理事会にて学則を変更	
			教育研究の質を高めるための教員評価の導入とSD研修の充実	○	教員評価プログラム	教員評価制度の修正、試行	
			ST比率の戦略的な学科別見直しによる改善		大学ST比率	教員人事計画に基づき教員採用を進めるとともに、継続して適切なST比率の検証	
		未来の世界を担うcreativeな知をカタチにできる人材の輩出	自己の関心事や専門分野と社会とのつながりを体感する学外学修の推進	○	学科教員企画FSプログラム数	新規の基礎FSと発展FS開講拡充のため、9月に学内にて新規プログラムの募集を行う。また、コロナ禍でも実施出来る確率が高い通学プログラムを開拓する。また、海外プログラムの見直しをはかり、円安等の影響を受けにくいプログラムを開拓 教員と連携を図り、計画したプログラムを安全かつ確実に遂行	
			学修成果をカタチにする手法(ライティング、プレゼン等)を支援するセンターの設置(上位層引き上げ・補習体制整備)	○	DP3、4	CLS(クリエイティブラーニングスクエア)に設けた展示スペースをより活性化するため、ポスターセッションの開催等を支援 CLSを利用した取り組みによって、学科を超えた教員・学生の交流を促進	
			アントレプレナーシップ学部の設置と起業家の輩出		起業数	キャリアセンターとの連携による全学起業支援(クラウドファンディングなどを通じた具体的な事業運営の支援を含む)	
			目的やニーズに応じ、個々人の環境や特性を活かした学び方を可能とする多様な学修プロセスの構築	○	学科のDP到達を示す成果物	「キャリアデザインD」4月開講、ビジネスプランコンテスト参加の先輩から後輩への人的つながり促進	
			官民幅広い分野での人材輩出		公務員上級職	全学的支援スキーム骨子を年内までに検討 学部横断情報提供、業務説明会を年内までに開催	
			教職員一体となったキャリア形成・就職支援(アドバイザー教員の主体的指導の支援体制拡充)	「大学通信」指定400社就職	○	【参考指標】 上場企業(4000社)への就職及び卒業時アンケート調査の進路先満足度の定点観測	キャリアセンターによるキャリア支援の早期化促進(キャリアデザイン新規科目の4月開講、1・2年生向けの就職・キャリアガイダンスの毎月実施)(企業に評価される経験と人間的成長、職業観涵養)、縦横のつながりでの活動促進
				キャリアセンター			「大学通信」指定400社就職OB・OGIによる企業説明会を年度内に開催

[武蔵野大学・大学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和5(2023)年度事業計画
チャレンジ2	未来の世界を創るcreativeな実践者の輩出	社会の変化を包摂する専門的知見に基づく解を提示する研究力の向上	社会の要請に応え、高度化する専門知に対応する大学院研究科の設置		大学院研究科の設置の検討案を提案する。	意見交換会を随時行い、研究科の設置に係る内容について精査
			大学院研究科の研究指導体制の再確認(DP・CP・論文審査等基準の見直し、FDの推進)	○	改善策の実施	6月：教育改革推進会議にて今年度の充足状況報告 11月：教育改革推進会議にて次年度の充足見込報告
			外部資金による研究費の獲得	○	科研費件数総額	<ul style="list-style-type: none"> <li>専任教員の研究時間確保のための教員数増加に係る学内調整</li> <li>学科事務委員の雇用に係る学内調整</li> <li>科研費応募者等へのインセンティブ付与(令和5年度科研費採択結果がわかる令和5年4月以降に配分)</li> </ul>
					奨学寄附件数総額	<ul style="list-style-type: none"> <li>専任教員の研究時間確保のための教員数増加に係る学内調整</li> <li>研究シーズ集の更新(随時募集・定期的な募集案内)</li> <li>研究クラウドファンディングの運用(随時募集・定期的な募集案内)</li> </ul>
					受託研究件数総額	<ul style="list-style-type: none"> <li>専任教員の研究時間確保のための教員数増加に係る学内調整</li> <li>研究シーズ集の更新(随時募集・定期的な募集案内)</li> <li>学科事務委員の雇用に係る学内調整</li> </ul>
		社会の変化を包摂する専門的知見に基づく解を提示する研究力の向上	研究活動の支援と研究成果発表の促進		査読付き論文の実績のある教員の割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>専任教員の研究時間確保のための教員数増加に係る学内調整</li> <li>査読付き欧文研究論文などの質の高いジャーナルへの掲載を目指す教員を支援する施策の整備</li> <li>大学として有料版AI翻訳ソフトの契約及びWeb of Science等の導入</li> </ul>
					クロスアポイントメント件数	<ul style="list-style-type: none"> <li>専任教員の研究時間確保のための教員数増加に係る学内調整</li> <li>卓越した研究者の招聘に係る体制整備</li> <li>現行の海外留学・国内留学制度を見直し、サバティカル研修制度の活用に向けた学内調整</li> </ul>
			研究費予算の戦略的配分		共同研究・その他研究件数総額	<ul style="list-style-type: none"> <li>専任教員の研究時間確保のための教員数増加に係る学内調整</li> <li>研究シーズ集の更新(随時募集・定期的な募集案内)</li> <li>学科事務委員の雇用に係る学内調整</li> </ul>
			大学間・産官学間の研究活動強化	○	大学間・産官学間提携事業数	<ul style="list-style-type: none"> <li>専任教員の研究時間確保のための教員数増加に係る学内調整</li> <li>研究シーズ集の更新(随時募集・定期的な募集案内)</li> <li>学科事務委員の雇用に係る学内調整</li> <li>海外との共同研究や国際シンポジウムの実施に対する支援策の体制準備</li> </ul>

[武蔵野大学・大学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和5(2023)年度事業計画		
チャレンジ3	AI世界を先導するMUSIC	情報教育・学習環境の整備	教室環境のスマート化 (プロジェクタ・ディスプレイの計画的な最新化)	○	教育(環境)の情報化装備率	(1)リプレースに向けた他大学情報収集を行い、DX推進委員会、教育改革推進会議での構想を検討 (2)設置し5年が経過する大学院自習室、国際交流スペース、教理工学PJTルームに設置されているPCを令和6年3月までに更新		
			教室定員に対する無線LANセッション数及び電源の確保	○		(1)武蔵野キャンパス2号館4階、第3体育館、むさしの館、及び有明キャンパス・武蔵野キャンパスの学友棟にネットワーク環境を令和6年3月までに整備 (2)国際的相互利用可能なローミングサービスeduroamを有明キャンパス・武蔵野キャンパスに令和6年3月までに導入		
			LMSの確立とAIサービスの導入	○	・教室のデジタル化率 ・共有空間のBYOD完備率 ・ストレスフリーな無線環境達成率 ・教育現場での響学スパイラル等の新しい学修スタイルの試みを支援するスマートサービスセンターの設置	(1)推奨LMS(Microsoft Teams)の利用スキル習得を100%にし、全学科での利用を段階的に普及・促進 (2)響学スパイラルの理念に基づき、協調学習や個別最適学習等の支援を行うICT/AIサービスの検討および思考 (3)授業におけるオンラインチューターの取り組み事例を紀要および学会発表等で内部および外部発信し、賛同した教員の実践事例を収集 (4)学生へのワンストップ支援サービスを検証・改善する。その一環で、スマートサービスセンターを設置		
					学生コモンズ等共有スペースの整備	○		▼【MUSIC計画推進小委員会にて検討】 (1)教育改革推進会議や学院キャンパス施設等検討委員会等での了承に基づき、響学スパイラル等、新時代を先取りする学修イノベーションのためのSIキャンパス・クラス環境のプロトタイプ教室を有明、武蔵野キャンパスに増設 (2)PoCの推進
					BYODを活かした響学スパイラル教育の全学推進	○	BYODを活かした響学スパイラル教育実践率	教育現場における次世代教育・学習サービスの導入による「響学スパイラル×BYOD」の学修イノベーション推進 (1)MUSIC計画推進小委員会にて、BYOD環境を活用した学科別の教育実践の普及を推進。学修イノベーション実践を実施する学科の割合90% 各学科から、響学スパイラルとBYODの取り組み状況について報告を受け、改善点を確認 (2)響学スパイラルの現場実践展開支援と、社会的発信の戦略的取り組み。導入した学科の割合と学内外のベストプラクティスを活用した学科の割合について共に90% (3)響学スパイラルとの連携について、チャレンジ1「自己と世界を問う」響学スパイラルとの連携 (4)学生のBYODに関する状況の調査及び指標の算出方法の検討
				教育の情報・スマート化	LMS、AIサービス、動画コンテンツ等を活かした教育の実践	○	LMS活用率の向上による教育のスマート化の促進	響学スパイラルを基盤とした学修イノベーション推進 (1)響学スパイラルを基盤とする学修の実現に寄与する次世代教育ツールの利用検討および試行 (2)響学スパイラル教育の具体的な手法として、教材や学生のポートフォリオを共有可能なLMS、学習データ分析、オンライン試験システム、動画作成ツール等の実践を進め、事例およびその教育効果について紀要および学会等で学内外に発信 (3)創立100周年記念事業SIGプロジェクトと併せながら教育DXについて検討

[武蔵野大学・大学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和5(2023)年度事業計画
チャレンジ3	AI世界を先導するMUSIC	AI-Ready-Universityを目指した情報・AI教育のブランド化	MUSIC発次世代型情報・AI教育の全学展開とサブメジャー化	○	(A) 1学年あたりのコース修了率(令和5年度以降) (B) 情報基盤科目の履修率	「情報教育に強い」「情報教育のトップランナー大学」のブランド価値を最大化 (1) 引き続き学生一人ひとりが確実に授業内容を理解し、到達目標を達成できるよう、Webツールを使用しながらきめ細やかな指導を授業内外で実施。3年次科目「人工知能実践プロジェクト」を実施し、1期生のプログラムを完了。また、R4年度人数制限が発生したニーズの高い科目のクラス増設 (2) 情報副専攻修了学生へ修了認定の発行(デジタルバッジ) (3) 情報副専攻のコース認定について、外部評価の実施を検討
					文系学部生の成長産業分野(情報分野等)への就職率	(1) 副専攻(AI活用エキスパートコース)学生のインターンシップ参加を支援するため、MUSICとキャリアセンターの連携した取り組みを検討・実行 (2) 副専攻(AI活用エキスパートコース)の履修学生に対して、AIによる社会変革とそれに伴う社会経済の変化を見据えたキャリア指導にも取り組む。成長分野企業を特定し、キャリア指導の中で調査した進路を元に成長分野への就職率を測定
					専門科目での専門領域とAI・情報分野の融合科目	「情報教育に強い」「情報教育のトップランナー大学」のブランド価値を最大化 (1) 情報教育のコンテンツ等の戦略的活用を実施 (2) 学科・学部別ニーズに基づいて、プログラミング系情報科目を学科科目として開講することを検討 (3) 各科目でのターゲット分野での展開ケーススタディの開発。ビジネスシナリオベースでの事例研究を実施
チャレンジ4	Global & Universal	世界に羽ばたき、世界を迎え入れる学部学科でのグローバル人材育成	協定・認定留学等の留学制度等の推進(海外渡航型)	○	① 海外経験比率 ② 海外学科FSを有している学科数 ③ 海外FS(語学研修等含む)参加学生数 ④ グローバルPBL	・4月、10月にオンライン型海外研修プログラムに参加した学生への渡航型プログラムの周知強化 ・留学フェア(年2回)、ニュースレター(年6回)の発行による留学関連情報の発信強化 ・交換留学先(欧米)の開拓 ・海外FSプログラム数をコロナ前の数値へ回復 ・長期派遣プログラムの多様化の検討(インターンシップも可能なプログラム等) ・語学検定対策講座の充実化 ・R4の試行結果を踏まえ、GPBLをより本格的に実施するための体制構築
			オンライン型海外研修プログラムの充実化とその支援		・プログラム数 ・参加学生数	・社会・学生のニーズに合ったオンラインプログラムを構築 ・安定的に短期語学研修(オンライン型プログラム)を実施できる協定校を調査 ・質が良く、よりコストが低いオンライン型海外研修の実施可能性を探るため、協定校以外のオンライン留学について調査
			留学生支援に取り組み、その広報を通じて優秀で多様な留学生獲得		・留学生比率 ・留学生出身国	・留学生アンケート結果から留学生の抱える課題について、令和5年度前期中に支援策を実施 ・留学生と日本人学生の交流推進について、10月までに大学主体から学生主体でのイベント運営に変更のうえ実施(年6回以上) ・国際会議(APAIE)等を通じて多様な国・地域との協定締結を行い、多様な留学生を獲得 ・留学生の声をHP上から動画で伝えるなど、本学の留学生支援をアピール
			第二外国語科目の充実		多様な第二外国語を2年次まで学ぶ学生数	教養教育部会と協力し、動画による意義周知や下位学年クラスでの上位学年クラス周知など、履修促進の取り組みを拡充
国内授業における外国語科目の強化	SDGs専門科目等外国語で修了できる科目・コースの設置	外国語で行われている講座数	・International Lectures実施学科のアンケート結果をもとにした充実させるための改善案を試行し、併せて実施多様化について検討			

[武蔵野大学・大学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和5(2023)年度事業計画
チャレンジ4	Global & Universal	ユニバーサルなキャンパス空間と学生支援	キャンパスをバリアフリーな空間として創造	○	・キャンパス再整備 ・第二期中期計画の計画立案	バリアフリーなキャンパス環境の構築に向けて、令和4年度に実施した学生へのヒアリング及び実地調査の範囲を拡大し、令和5年12月までに調査を実施・完了。その上で第二期中期計画指針の作成を令和6年3月までに開始
			教職員のユニバーサル化	外国人教員比率		①外国人教員採用の積極的な実施（国際公募の実施） ②外国人教職員各種サポート活動の実施 ③誰もが働きやすい大学を目指した取り組み ・教職員アンケートの継続実施 ④SOGI（Sexual Orientation and Gender Identity（すべての人が持つ性的指向・性自認）に関する積極的な取り組み ・教職員研修、学生に向けた情報発信、学内ガイドライン・相談体制の強化
				女性教員比率		女性が就業を継続し、活躍できる環境の整備を行う。 ※職員を含めた環境整備 ①復帰に関する諸施策の実施、②各種サポートの実施 ③誰もが働きやすい大学を目指した取り組み ・教職員アンケートの継続実施、茶話会の継続 ④SOGI（Sexual Orientation and Gender Identity（すべての人が持つ性的指向・性自認）に関する積極的な取り組み ・教職員研修、学生に向けた情報発信、学内ガイドライン・相談体制の強化
				若手教員比率		①若手教員採用の積極的な実施 ②インセンティブに関する諸施策の実施 ③誰もが働きやすい大学を目指した取り組み ・教職員アンケートの継続実施 ④SOGI（Sexual Orientation and Gender Identity（すべての人が持つ性的指向・性自認）に関する積極的な取り組み ・教職員研修、学生に向けた情報発信、学内ガイドライン・相談体制の強化
			障害者学修支援と多様な学生サポート	○	卒業時アンケート満足度	卒業時アンケートの満足度の目標数値を維持するため、令和5年度内に以下の計画を実行 ①SIG及び100周年PJとの連携を踏まえた学生支援のワンストップ窓口（対面及びオンライン）の完成 ②ボランティアセンターによる包括的な学生支援（学生ピアサポート）プラットフォームの完成 <具体案> ・学生主体の取り組みへの助成、アワード設立等の検討。 ・ボランティア活動団体のプラットフォームの完成+イベント企画の実施
チャレンジ5	MU-GENにつながるInfinite Linking	大学の枠を超えてつながる新設プラットフォーム（オンライン+リアル）を活用した各種連携（中高大接続、地域連携、通信教育、大学間・産官学連携、卒業生との連携）	学生（中高大）、卒業生、大学、企業、地域が参画する大学の枠を超えたプラットフォーム（オンライン+リアル）の新設		MUプラットフォーム（MUPF）の開発 卒業時アンケート推奨度	・武蔵野大学のインターネットラジオを開局 ・各学科・研究科等が行っている各種講座のアーカイブ化の検討 ・卒業生を対象とした学内施設利用の検討
			本学の教育コンテンツを活用した中高大接続		国内外の中高生との連携	・附属校および本学にとっての重点高校1～2校と新規の高大接続プログラムを実施
			本学進学者及びIR情報を用いた高大接続		本学進学者輩出高校への相互フィードバック	・当該高校から本学へ進学した学生のライフストーリーにIRデータを組み合わせた資料を作成し、高校訪問等で活用

[武蔵野大学・大学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和5(2023)年度事業計画
チャレンジ5	MU-GENにつながるInfinite Linking	大学の枠を超えてつながる新設プラットフォーム(オンライン+リアル)を活用した各種連携(中高大接続、地域連携、通信教育、大学間・産官学連携、卒業生との連携)	MUSICによる教育プログラムを通じた高大接続	○	THE大学ランキング 日本版教育充実度 (高校教員の評判向上)	・「情報教育」をテーマとした大学教員・高校教員合同の勉強会を年に1～2回程度開催
			地域ニーズを把握し、生涯学習講座等を活用した地域連携		生涯学習講座の参加者数、満足度	・生涯学習講座の方針・目標値の決定
					研究所等講座の参加者数、満足度、見える化	・大学HPで各研究所・センターごとに公開 ・年度始めに講座等の年間計画を研究所ごとに設定、速やかに公開
			通信教育部での学修機会の拡大による卒業生を含めた学生確保	○	スクーリングのオンライン(ハイフレックス=対面+オンライン)化	・遠隔受講に対応する科目を増やすために、メディア授業の増強に向けた収支計算の見直しを行う。また、SIGプロジェクトと連携し、動画サーバーの切り替えについて検討 ・質の高いスクーリングを実施するための、土日・夏期においても通学制と同等の授業サポートおよび危機管理体制の構築について検討
			通信教育部の学修者本位のCPへの見直し(学部、大学院)	○	改善策の実施	授業アンケートの分析を行い、シラバスとCP・DP、授業評価の運動と、実質化
		武蔵野サンガの醸成(卒業生・退職者・在学生・教職員・後援会の連携)	卒業生ニーズを把握し、通信教育部、生涯学習講座等を活用した卒業生支援		卒業生通信教育部 入学者数	通信教育部での学びについて、通学課程・通信課程双方の卒業年次生に対して、チラシ等を配布して周知 学費減免に関わる規程等の整備
					卒業生生涯学習講座の参加者数、満足度	・リカレント講座(卒後教育を含む)の方針・目標値の決定 ・学部学科の意向を受けて、社会響創センターに諮り、リカレント講座(卒後教育を含む)を展開。
			100周年記念事業を契機とした同窓会組織の活性化と、卒業後の継続的な情報接触を通じた関係性の強化	職域&企業内等同窓会数		・同窓会組織をバックアップし、同窓会数拡大を促進 ・他部署が保有している情報等を連携共有し、活用を図り、職域及び企業内同窓会について施策の見直しを含めて年度内に検討 ・むらさき会と連携し支部等の同窓会の活動などWebサイトで広報展開を随時実施 ・卒業生のニーズ調査の集計、分析を踏まえ卒業生サービスにかかる企画等を10月を目途に検討し、100周年に向けて、oViceなどオンラインツールなどの同窓会を12月までに開催
				卒業生把握率(現住所などを把握して連絡が取れる卒業生/女子大時代を含む全卒業生)	○	・むらさき会DBの円滑な運用体制の構築を進め、くれない会の会員管理DB構築、及び千代田同窓会の会員DB化に向けた協議を年度内に実施 ・校友サポートサイトへの卒業生活躍紹介記事や法人及び在学生に関する情報発信を随時実施
					OBOG訪問可能者数	・求人navi進路決定届入力時にOBOG訪問受入れ可否確認を徹底し協力者拡大 ・在学生の訪問利用促進(卒業時協力者増につなげる)

[武蔵野大学・大学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和5(2023)年度事業計画
チャレンジ6	共に5つのチャレンジを実現する学生の安定的な確保	武蔵野大学のビジョンの社会的認知と共鳴する優秀な人材の確保	入学定員を満たす入学者の確保(学部)		入学者数、定員充足率	学校法人武蔵野大学入試戦略基本方針に基づき、入試検討委員会で審議決定する入学者確保計画に沿って、志願者状況によって適宜修正を加えて目標を達成
			大学院研究科の定員管理徹底(入学者の確保又は定員の削減)	○	収容定員に対する在籍学生比率	学科と連携し、学内推薦者数増に向けた広報の強化 外部向けには研究力を訴求するパンフレットの作成・配信による志願者増加
			入学者に占める本学第一志望比率増		新入生アンケート(回収率要向上)	・学科毎にターゲットとなる競合校の学生募集及び入試等を分析し、差別化した特色ある広報を展開 ・「武蔵野に行けば成長する」をテーマに学生が成長する等のストーリーを持って広報を展開 ・資料請求(大学パンフレット等)や大学HPによる本学への興味関心度を高め、オープンキャンパスや相談会、大学見学等のより興味関心度を高めるフェーズへ移行
			実志願者数の確保 18歳人口減対応(2020年117万人、2024年106万人 1割減)		実績値	従来のターゲット層(高3生)への広報活動だけではなく、高1、高2段階における認知度を高めるため、受験者層以外のターゲットへの広報を強化
				入試施策(出口から入試の合格基準を考える)	学科毎基準作成(一般就職系学科)	・学習指導要領改訂に伴う入試科目の見直しや記述式問題の出題等を入試検討委員会にて検討 ・一般選抜A日程(理系)の対象学科を拡充
		Society 5.0時代のニーズに即応した学部学科等の新設再編	建学の精神、アフターコロナの社会変化、ICTを用いた学び方の変革等を見通したニーズの把握		学部学科等の再編	・特色を明確にし、訴求力のあるカリキュラム、教員人事を実現する新学部等の設置準備 ・学部学科等における収支見込み等の経営に必要な情報の選別、整理 ・過去に廃止した学部学科等の理由や状況を整理し、課題を発見・分析
		社会的評価指標の向上	THE大学ランキング等の社会的指標向上策のモニタリング		THE大学ランキング日本版順位	「学生調査」に着目し、令和3年から授業アンケート、学生生活実態調査でも同じ設問を導入しており、分析を実施する。また、「高校教員からの評判」の強化の一環として高大接続プログラムを実施
		社会に輩出する学生数の減耗の極小化	社会環境の変化に対応できる学生支援体制の強化		組織改組	・奨学金新制度の周知・広報を前期に行い、後期には規程・細則に基づく安定的な運用(受験生・学生への浸透) ・障害者差別解消法の改正に伴う規程の整備を年度内に行い、学内の学生支援体制をより安定化

[武蔵野大学中学校・高等学校]

区分	第一次 長期計画	第一期 中期計画	2020年度～2024年度 事業計画	重点 計画	指標	令和5(2023)年度 事業計画
1	<p>附属校としての役割を果たしながらも、グローバル・サイエンス教育の充実をはかり、21世紀において先進的な教育・学校事例を社会に提供し続けるリーディングスクールとして変革し続けていく</p>	<p>真なるグローバル人財育成のためのシステムの構築</p>	<p>コースの再編と具体的なカリキュラムの構築</p>		<p>新コースの認知活動(生徒募集活動にて)</p>	<p>ホームページを活用し、各種イベントや入試説明会情報に加えて、学校や生徒の活動の様子を周知し、広報</p>
			<p>海外トップ大学への進学ノウハウの蓄積</p>		<p>勉強会の開催</p>	<p>各コース長と海外入試のエッセイ・ライティング指導研修</p>
			<p>国公立・最難関私立への指導強化</p>		<p>研修会及び見学会の開催</p>	<p>進路指導研究の実施 進路指導部員、及び各コース長を中心に進路研究を実施</p>
			<p>英語四技能への対応と各種試験の研究</p>	○	<p>TOEFL60点以上または英検準1級以上</p>	<p>TOEFL試験を受験することで本校教員が受験ノウハウの蓄積</p>
			<p>各授業の品質と大学進学指導力の向上</p>		<p>研修会及び見学会の開催</p>	<p>教務部の体制整備 研修会の実施(教務データに基づく指導方法の確立)</p>
			<p>短期・長期留学制度の充実と海外留学生の受け入れ促進</p>		<p>制度の見直し</p>	<p>保護者、生徒対象の留学説明会の実施</p>
			<p>校内行事の整理・削減と一貫性の構築</p>		<p>時代の流れを受けた教育効果の実践</p>	<p>恒例行事の教育効果の検証と再検討 新規行事の効果検証と恒例化への検討</p>
		<p>サイエンスを身につけるためのシステムの構築</p>	<p>理数系教科の指導力の向上</p>	○	<p>外部コンテスト参加</p>	<p>外部コンテスト参加 各コンテスト募集状況 教職員間の周知体制の構築</p>
			<p>外部企業との連携</p>		<p>最先端コンテンツの導入</p>	<p>外部企業と連携し、最先端のコンテンツを導入した授業を実施、並びにその効果検証を行う</p>
			<p>外部学カテスト結果の分析及び授業での検証</p>		<p>勉強会の開催(職員会議での共有)</p>	<p>勉強会の開催(職員会議で共有)</p>
			<p>学級運営力・授業力向上に向けての各種研修会への参加</p>		<p>参加の奨励</p>	<p>①授業評価アンケート実施 ②教科研修会の実施 ③外部研修会の参加推奨</p>
			<p>21世紀型学力のためのハード・ソフトの構築</p>		<p>研究(外部メディアからの取材)</p>	<p>整備済みハード・ソフト等の使用状況や成績等の変化を分析し、検証</p>

[武蔵野大学中学校・高等学校]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和5(2023)年度事業計画
1	<p>附属校としての役割を果たしながらも、グローバル・サイエンス教育の充実をはかり、21世紀において先進的な教育・学校事例を社会に提供し続けるリーディングスクールとして変革し続けていく</p>	<p>サイエンスを身につけるためのシステムの構築</p>	<p>最難関大学への指導ができる体制づくり</p>		<p>チームの構築</p>	<p>前年度のEX部の活動の振り返り、並びに活動内容の再検討改修後の進路指導室の活用、並びに進路指導部と各コース長による新たな指導体制の構築</p>
			<p>ICT教育を含む継続的な学習環境の整備</p>		<p>整備計画の立案</p>	<p>ICT関連備品整備 (故障時対応用ipad購入)</p>
2	<p>目的達成のために必要な教育コンテンツ・スキーム・人材の開発・育成を進め、確実なアウトカムを出し、実践の頒布を行う</p>	<p>教員が改革推進に対して一致団結して取り組む体制の確立</p>	<p>人員配置の整理と機動力の向上</p>	○	<p>働き方改革と千代田との協力体制の確立(人事交流)(教員・生徒の満足度調査)</p>	<p>教員の働きやすさに結びつけるため、教員ヒアリングを実施するとともに生徒の満足度調査を実施</p>
			<p>クラスター型組織による複数の次世代リーダーの育成</p>		<p>若手教員によるプロジェクト</p>	<p>人材育成をかねて、若年教員層でプロジェクトを運営</p>
			<p>学外広報の強化による志願者増</p>		<p>広報活動の強化</p>	<p>HP情報の整理と充実 集客分析</p>
			<p>改革を推進し入学者の増加を達成し収入の増加と収支の均衡を図る</p>		<p>教員の財務意識の向上</p>	<p>教員間にて入試説明会の集客状況を適宜共有し当該年度の状況、動向を把握。入試説明会やその他のイベントの教員の積極参加により、生徒募集に対する意識向上を促し、入学定員の充足を促進。</p>
3	<p>学祖高楠順次郎先生が目指された、「社会に貢献する人材の育成」という原点に立ち返る</p>	<p>「世界の幸福とは何なのか」を考え続けるために必要なシステムの設計を行う</p>	<p>社会に貢献する人材になるためのオリジナル教育の開発</p>		<p>開発作業</p>	<p>「言語活動」を中心に学校独自科目の教材をまとめて、オリジナル教育の具現化へ着手</p>

[千代田国際中学校・武蔵野大学附属千代田高等学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和5(2023)年度事業計画
1	前身である千代田女学園設立者の島地黙雷先生が目指された「国際教養人の育成」に立ち返り、国内外の難関大学への進学を保証していく	国内難関大学・海外大学への合格力を高める	コースの再編と具体的なカリキュラムの構築	○	コースの統廃合に伴う教育課程の変更	千代田国際中学校の生徒が高校に進学する際のコースやカリキュラムについて、教育課程変更の必要性を検討
			海外トップ大学への進学のノウハウの蓄積		勉強会の開催	進路指導室の書棚整備、関連書籍の購入 英語科教員に加え、英語科教員以外からも8月に実施されるグローバルキャンプに2名参加
			国公立・最難関私立への指導強化		研修会及び見学会の開催	予備校の教員対象授業セミナーへの参加 大学入試に向けた外部の講演会の実施
			各授業の品質と大学進学指導力の向上		研修会及び見学会の開催	成績評価と授業に関する研修会の実施 年2回の授業見学会の開催
			チームで進路指導を行う体制づくり		体制づくり(進学実績の向上)	外部のキャリアカウンセラー等に講演の依頼や、研修への参加
			入試制度の研究と個別最適化の模索		研究と実践(学力推移の検証)	予備校の教員対象授業セミナーへの参加
		想像力と教養力の育成	世界を見据えた教材の選定とテストの抜本的な見直し	○	全統模試偏差値(3教科)	教科の授業研究・セミナー実施
			短期・長期留学制度の充実と海外留学生の受け入れ促進		制度の見直し	生徒の教育支援に資するよう、奨学金の規程を変更し、教育制度を充実
			教員の教養力の強化		研究と実践	目標達成シートとふり返りに基づいた人事計画 教員研修を春と夏の年2回開催
			外部企業等との連携		最先端コンテンツの導入	効果の検証を行い、充実したプログラムを実現するために連携先を再検討
2	目的達成のために必要な教育コンテンツ・スキーム・人材の開発・育成を進め、確実なアウトカムを出し、実践の頒布を行う	教員が改革推進に対して一致団結して取り組む体制の確立	クラスター型組織による複数の次世代リーダーの育成		若手教員によるプロジェクト	人材育成をかねて、若年教員層でプロジェクトを運営
			学外広報の強化による志願者増		広報活動の強化	集客分析に基づいた効果的な広報 投稿内容の戦略立てを実施
3	学祖高楠順次郎先生が目指された、「社会に貢献する人材の育成」という原点に立ち返る	「世界の幸福とは何なのか」を考え続けるために必要なシステムの設計を行う	社会に貢献する人材になるためのオリジナル教育の開発		開発作業	校内研修の実施(建学の精神について/実社会で必要となるマインド・スキルに関して)
4	法人全体ベースでの組織マネジメントの構築	法人統合後の実効的な組織運営とガバナンス体制の強化	事務室業務の整理(法人業務と設置校業務)と法人への移管		設置校業務の適正化(規程の整備)	法人業務と設置校業務を整理し、千代田中高と武蔵野中高が、同様の業務フローになるように業務を移管

[武蔵野大学附属幼稚園・慈光保育園]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和5(2023)年度事業計画
1	園児が健やかに成長できる教育環境を整備する	目標を具現化した競争力のある教育を企画・実施して、園児を成長させる	園児と保護者の満足度が高まる教育の質の向上を目指す		保護者保育参加の参観日 教員研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育方針のさらなる浸透</li> <li>・教員研修の実施</li> <li>・園児の送迎方法多様化</li> <li>・通園バスの安定稼働（運転手の業務委託）</li> <li>・正課の見直し及び新規プログラムの導入</li> <li>・劣化したおもちゃの更新（年次計画）</li> <li>・大学との連携による保育の質向上</li> </ul>
			園児が健やかに成長できる教育環境の整備	○	魅力ある遊具の更新設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都環境整備補助金を活用し、複合遊具施設を更新（年次計画）</li> <li>・旧園舎保育室設備等の改修（年次計画）（天井クロス、入口扉、トイレブース、トイレ床、照明）</li> <li>・沼田ホール天窓清掃</li> </ul>
			地域子育て支援への貢献	○	育児相談の実施 子育て応援講座開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児相談の対象者を園児の保護者限定から、未就園児など地域の子育て世代の支援を行うこととし、保育園とタイアップして広報活動を展開</li> <li>・保護者から高評価の子育て応援講座については継続開催するとともに、大学教員を講師とすることで、大学と連携</li> <li>・幼稚園の知名度向上に繋がる広報活動を展開</li> </ul>
2	企業内保育所の円滑な運営	きめ細かい保育を企画・実施して、園児を成長させる	園児と保護者の満足度が高まる保育の質の向上を目指す		育児について保護者との勉強会を開く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談会及び面談を通して信頼関係を構築し、保護者の満足度を向上させることで、2才児の幼稚園入園を拡大</li> <li>・職員研修の実施によるスキルアップ</li> </ul>
			園児が健やかに成長できる保育環境の整備	○	幼児専用砂場設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児の発達に合わせた手作りおもちゃの充実</li> <li>・劣化した衛生機器及び老朽化備品等の更新</li> <li>・遊具増設（木馬）</li> </ul>
			地域子育て支援への貢献		幼稚園とタイアップした育児相談の実施・子育て応援講座の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児相談の対象者を園児の保護者限定から、未就園児など地域の子育て世代の支援を行うこととし、幼稚園とタイアップして広報活動を展開</li> <li>・保護者から高評価の子育て応援講座については継続開催するとともに、大学教員を講師とすることで、大学と連携</li> <li>・保育園の知名度向上に繋がる広報活動を展開</li> </ul>
3	入園者の確保	保護者も満足できる教育の実施	入園応募者の増加	○	入園定員確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園入試Webシステム導入</li> <li>・オープンスクール実施6回</li> <li>・ドキュメンテーションの導入</li> <li>・保護者のニーズが高い預かり保育の充実</li> <li>・満足度向上に向けた課外活動の内容の見直し</li> <li>・園パンフレットの見直し</li> <li>・未就園児クラスの保育内容の見直し</li> <li>・ホームページの充実による広報活動拡大</li> </ul>

[武蔵野大学附属有明こども園]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和5(2023)年度事業計画
1	大学の様々な学部と連携し園独自のカリキュラムを構築することによる円滑で安定した運営	園児と保護者の満足度が高まる教育・保育の質の向上を目指しつつ、円滑で安定した運営を行う	園内外の研修や教育学部幼児教育学科との共同研究等を通して、教職員の指導力の向上を目指す	○	キャリアアップ研修修了者率 (保育教諭数31名)	園児の安全に関する園内研修に非常勤職員も参加、若しくは参加できない場合も研修資料を通して共通理解できるように整備 教育学部との共同研究は場所が離れていて難しいようであれば他校も含めてアンケート等で協力して教職員が保育を振り返り、質の向上に努める機会として実施 キャリアアップ研修受講を更に推奨
			発達障害児等の障害者受入体制の整備 ・江東区からの斡旋児1名に付き担任とは別に非常勤1名配置 ・斡旋以外の園児をどの程度受け入れるか検討と体制づくり		障害のある園児	・療育通所園児についてはこども発達センターと連携して園児と保護者を支援。また非常勤職員を多く募集し加配として申請し支援を充実化
		園児が自発的に遊び込み、生きる力を身につけられるよう、わくわくプログラムを実施するなど、教育・保育環境を充実する	様々な学部と連携し、園児が多方面に亘る事象に興味を持ち、視野を広げていける環境の整備	○	わくわくプログラムの年間実施回数	わくわくプログラムは内容や実施頻度を年齢に合わせて調整していく。同時に園児に必要なプログラムを積極的に整備 ICT教育のプログラムについても1年目を振り返り2年目は就学時にも役立つより良い内容・方法を外部講師と相談しながら調整
2	子育てを中心に様々な情報を発信し地域に根付いた園にする	地域に開かれた施設として、地域子育て支援プログラムを通し、こどもの健全育成及び子育て世代の家庭の支援を図る	地域の子育ての拠点となれるよう子育てに関する講習会や絵本の読み聞かせ会等の充実	○	地域子育て支援プログラム年間実施回数	・子育て支援プログラムは概ね好評で園児募集にも繋がることから、地域の子育てに貢献できるようプログラムの拡充 ・一時保育は人員を確保して週2日以上の開室を整備 ・小学校との連携では『幼保小架け橋プログラム』を基に区の研修を通して課題への共通の認識を持ったり、地域の小学校や保育施設と協力して小1プロブレム軽減に貢献

[法人]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和5(2023)年度事業計画
1	仏教精神の再確認と共有	仏教精神の普及	「建学の精神」である仏教精神の学内外への普及に資する式典、行事、研修、講演会の充実	○	①日曜講演会の参加者数	地域貢献を進め、参加者数増加を促進。有明開催の準備を進行
					②法人内の各学校の関係強化	各学校独自の活動を継続させながら、各学校間での意見交換等の相互交流を進めることで関係を強化
					③大学礼拝の参加者数	武蔵野/有明両キャンパスで対面にて開催
					④仏教ボランティアの参加者数	本願寺派各寺院や大谷派組織と連携を強化し、ボランティア数を充実
					⑤各種仏教行事の充実	100周年記念行事について関連部署と連携して準備。感謝法要や記念式典の際の協力、記念碑建立の際の法要等今後計画を進行。その他の各種行事においても継続的に仏教精神を普及
					⑥職員研修の参加率	100周年において建学の精神をあらためて見つめ直すことができる研修の検討 新任を中心とした雪頂忌和田堀実地研修、築地本願寺実地研修、一般職員向け動画研修の計画実施
2	ガバナンスの構築と執行体制の強化	ガバナンス構築	学長・校長・園長を中心とした全学院の執行体制の強化		①関係規程の整備	法人としての規程等をシステムにより一元管理
					②規程等に基づく運営	システムにて管理する規程等をメンテナンス 規程制定・改正等における事務フローを明確にし、システムに合わせたスケジュール設計による規程等の管理を全学的に実施 システム利用に係る事務職員向け説明会の実施
			ガバナンス・コードの実質化		ガバナンス・コードの策定及び自己点検の実施・公表	・令和4年度の自己点検結果を基により実施が不十分な項目を速やかに改善 ・令和5年度の遵守状況の自己点検を実施し、未遵守項目や内部監査室からの指摘事項があった場合には、速やかに改善

[法人]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和5(2023)年度事業計画			
3	組織の活性化と職場環境改善の推進	人事・組織の活性化	スピード感ある業務執行と確実に効率的な業務を実現する組織の確立	○	①事務組織の改編	管理職への登用及び部署別の最適人数の把握による人員配置を実施			
					②事務組織の改正	改編後の事務組織を検証し、必要に応じて事務組織規程の改正を実施			
				○	①テレワーク規程の改正	新たなテレワーク勤務をスタートさせ、問題点等の検証を行い、必要に応じて次年度に向けた改正を検討			
					②残業の削減	中長期計画に基づく職員数の確保、管理職への労務管理の徹底及び法令遵守の周知及び新たなテレワーク勤務制度により残業時間を削減			
				○	①職員研修計画の策定・実施	令和4年度で新研修制度の仕組みを完成させ、令和5年度からは個人で研修の受講状況を確認し、上位資格を目指す研修制度を稼働			
					②職員資格制度の導入と給与制度の見直し	人事課DXの一環として、人事システムを導入し、正しい資格制度の運用ができていないか、システムで確認できる体制を構築			
			③評価制度の検証・見直し		人事課DXの一環として、評価の積み上げ及び多面評価の導入に向け、コンサルティング会社を通じてシステム業者を選定し、導入 大学教員の評価制度については、引き続き検討				
			○	全学院のコンプライアンス及びハラスメント対策推進と行動規範に基づく倫理の徹底	①ハラスメント規程の改正・研修実施	ハラスメント対応委員会の定期開催 ハラスメント相談窓口を希望者が利用しやすくするための情報公開 リーフレット等によるハラスメント防止啓発、相談しやすい環境の構築			
					②行動規範の改訂・周知	行動規範の随時見直し			
			4	ブランディング広報の強化	戦略的広報計画の策定・展開	全学的連携を視野に入れた広報の充実	○	①リクルート・進学ブランド力調査	入試広報、100周年事業と連携した効果的な施策の実施
								②日経BPコンサルティング 大学ブランド・イメージ調査 大学認知率	取組1 ・ブランド広報の継続的展開 ・法人WEBページのリニューアル ・広報力強化施策の実行 取組2 ・ブランド広報新メッセージの広告展開、広報展開
								③プレスリリース	発信件数を維持しつつ、よりパブリシティに繋がる内容の精査、各学部・部署へのリリース作成啓蒙活動、設置各校からの情報収集

[法人]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和5(2023)年度事業計画
5	創立100周年記念事業の成功と、次の100年への長期的パースペクティブ	100周年記念事業の企画推進とブランディング	100周年記念事業の推進	○	【PJ1】スマートインテリジェントキャンパス開設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の場の（メタバースキャンパス、oVice）一部開設</li> <li>・MUデジタルラーニングサービス（動画配信プラットフォーム、オープンバッジ）の提供（通信制メディア授業含む）</li> <li>・学修コンシェルジュサービスの提供</li> <li>・ステークホルダ関係性醸成のシステム導入（SRM、通学制及び通信制、生涯学習の入試等受講者データ統合基盤の構築）</li> <li>・新学生ポータル導入（Microsoft Teams、既存ライセンスにて構築）</li> <li>・HPの追加（SIC施策の効果を高めるための活動）</li> </ul>
					【PJ2】学生参加型イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学院歌第一/第二及び関連する楽曲の再録音を年度内に実施</li> <li>・新たなスクールソングについて設置校間でWSを展開し、作曲・作詞活動を経て楽曲を年度内完成</li> <li>・卒業生を訪ねるPJ(卒業生取材)について、同窓会、学科の推薦、卒業生調査で抽出された学生への取材及び原稿作成を年度内に実施</li> <li>・学生による企画コンテストを開催し、秋の大学祭及び文化祭の時期を目処にプレイベント（アワード）を実施</li> </ul>
					【PJ3】記念式典/講演会/記念祝賀会	令和6年度に実施予定である記念行事（講演会、式典、法要、祝賀会）の実施方法の策定 記念行事における予算の算出及び実施要項の策定
					【PJ4】100年史記念編纂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員インタビュー・卒業生対面取材（座談会等の開催）</li> <li>・退職教職員取材継続実施</li> <li>・ニュースレター（編纂日より）発行</li> <li>・原稿執筆、80年から100年の間の20年間に注力</li> <li>・資料収集・整理継続</li> </ul>
					【PJ5】高楠学祖関連書籍の発刊・映像制作	「論集 高楠順次郎」（吉川弘文館）、「高楠順次郎日記」（武蔵野大学出版会）、「評伝 高楠順次郎」（吉川弘文館）、高楠学祖伝記漫画の刊行に向けて関係者と協力して作業
					【PJ6】学祖記念国際センター開設	令和7年度の学祖記念国際センター開設に向け、引き続き、学祖に関するデジタルデータ作成。バーチャルミュージアムの開発、データセンソリウムの構築に着手 施設設計は、施設設備検討委員会を軸に展開
					【PJ7】記念碑の設置、募財者刻名	記念碑の制作に着手。令和7年度の学祖記念国際センター開設後に移設を予定している寄付者銘板は雪頂講堂に仮設置
					【PJ8】(学術)論文・作文コンクール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクール開催を広報し、公募を開始</li> <li>・応募作品をリスト化し審査</li> <li>・審査結果を取りまとめ、入賞作品を決定</li> </ul>
					【PJ9】文化・芸術・研究成果の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能楽イベント(2024年度)開催に向けた興行業者との協議</li> <li>・研究シンポジウム(2024年度)実施に向けた担当教員との調整</li> </ul>

[法人]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和5(2023)年度事業計画
5	創立100周年記念事業の成功と、次の100年への長期的パースペクティブ	100周年記念事業の企画推進とブランディング	100周年記念事業の推進	○	【PJ10】100周年事業広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報コンサルティング会社との定例ミーティング実施 ⇒広報戦略・KPIの設定、プロモートシートの作成</li> <li>・広報戦略に基づく広報計画・広告計画の立案と実行 (プレスリリース、メディアキャラバン、広告出稿等を想定)</li> <li>・100周年記念サイトのコンテンツ充実 (各PJの情報発信、関係者取材コンテンツ等を想定)</li> <li>・100周年に向けた機運を高める法人内広報 (記念グッズ・記念広報誌等の制作検討、100周年ロゴマークを活用したキャンパス内装飾等を想定)</li> </ul>
					募財目標額：20億円	趣意書の作成、記念品の活用、渉外活動から募財の取り込みを図る。同窓会については4月発送の会報に100周年募金の案内を掲載もしくは同封
6	卒業生の組織化とロイヤリティ向上による大学価値の最大化	卒業生(同窓会)の組織化・機能化	校友会連合会(仮称)の創設	○	①校友会連合会(仮称)総会開催[2020]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・むらさき会と連携し支部等の同窓会の活動などWebサイトで広報展開を随時実施</li> <li>・卒業生のニーズ調査の集計、分析を踏まえ卒業生サービスにかかる企画等を10月を目途に検討し、100周年に向けて、oViceなどオンラインツールなどの同窓会を12月までに開催</li> </ul>
					②企業内同窓会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会組織をバックアップし、同窓会数拡大を促進</li> <li>・他部署が保有している情報等を連携共有し、活用を図り、職域及び企業内同窓会について施策の見直しを含めて年度内に検討</li> <li>・むらさき会と連携し支部等の同窓会の活動などWebサイトで広報展開を随時実施</li> </ul>
					③職域同窓会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会組織をバックアップし、同窓会数拡大を促進</li> <li>・他部署が保有している情報等を連携共有し、活用を図り、職域及び企業内同窓会について施策の見直しを含めて年度内に検討する。学科や支部等が開催するイベントなどへの活動支援及び校友サポートサイトでの広報展開</li> </ul>
					④海外同窓会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会組織をバックアップし、同窓会数を増やしていく。活動状況やニーズについてアンケート調査を分析し、9月を目途に施策を見直し</li> </ul>
					⑤会員DBシステム稼働[2021]	むらさき会DBの円滑な運用体制の構築を進め、くれない会の会員管理DB構築、及び千代田同窓会の会員DB化に向けた協議を年度内に実施
					⑥連合会HP開設[2021]	校友サポートサイトへの卒業生活躍紹介記事や法人及び在生に関する情報発信を随時実施

[法人]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和5(2023)年度事業計画
7	財政基盤の強化	経営指標に基づく財政の安定化	経営指標に基づくバランスのとれた予算の構築と執行		財政分岐点指標の順守	経営指標に基づくバランスのとれた予算の構築と執行を実施するとともに、各校の経営指標の見直しを推進
			各種収入源の継続的な模索と確保		補助金・外部資金の獲得	安全性を担保しつつ積極的な資金運用活動を推進。10月までに購入計画を実行
			ステークホルダーに対する募財システムの構築と募財の推進	○	寄付金額	100周年募財と絡めて、4月から積極的な募財活動を推進
		【大学】経営指標に基づく財政の安定化	中長期事業計画を踏まえた経営指標（大学）の見直し		新経営指標	経営収支差額比率や人件費比率等他校と比較可能な経営指標のガイドポストを策定し、経営状況を把握
			Best・Normal・Worst各収支シナリオに基づく弾力的な経営（収入減少時の支出抑制策）		中長期財政計画・事業活動収支	収入面では学生数動向等を把握の上、実態に基づく試算、支出面は厳格な執行管理を行う。7月に効果的な予算の配分となるよう補正予算を実施
			借入金・リース等外部負債を抑えた設備投資		自己資本比率	資産と負債の状況を精査し、極力保有資産範囲内での設備投資計画を策定
		【武蔵野中高】経営指標に基づく財政の安定化	単年度収支の継続的な黒字化の達成		財務指標に基づく予算・決算	経営収支差額比率や人件費比率等他校と比較可能な経営指標のガイドポストを策定し、経営状況を把握
			千代田高等学院を含む、中高財政基盤の健全化		財務指標に基づく予算・決算	ガイドポストを順守した財政計画の実施
			東京都下の12歳・15歳人口（20%）減を想定した経営計画の見直し		中高経営計画の策定	ホームページを活用し、各種イベントや入試説明会情報に加えて、学校や生徒の活動の様子を周知し、広報前年度より好評を得ている校長講演や各種志願者向けイベントを引き続き実施していくことで継続的で安定した入学者数の確保
			任意団体（部活動・紫紅会、学年費、感謝献金）のネットバンキングサービスを活用した管理		資金管理の適正化	学年費支出の適正化 ネットバンキングを活用した代理収納方法の構築
			高校校舎・中学校舎の建替えを想定した2号基本金の組入、募財計画。		第2号基本金への組入率	施設の取得を見据えた第2号基本金組入を実施 募財活動の継続による寄付金の増強
			教学（総コマ数）と法人（経営）の整合性のある人件費管理の実現		人件費比率 教職員定数（客観的必要数） （給与規程の改正）	コースの整理に伴う教員数の見直し
			予算執行の適正化		執行率 教管比率	適正な予算見積の取得と、執行管理
		【千代田中高】経営指標に基づく財政の安定化	学校管理資金（感謝献金・部費等）のバンキングサービス利用		決算報告	ネットバンキングを活用した代理収納方法の構築
			持続性を担保するための堅実な学校会計の実行		特定資産への組入率 第2号基本金組入率	施設の取得計画、財政状況を見ながら組入再開を検討

[法人]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和5(2023)年度事業計画
8	危機管理体制の確保	危機管理マニュアルに基づく危機管理体制の確保	感染症対策を含めた危機管理マニュアルの更新	○	危機管理マニュアルの更新	危機管理マニュアルの随時更新
			災害等発生時に迅速・柔軟に対応するための危機管理体制の見直し	○	事業継続計画(BCP)策定	危機管理マニュアルに連動したBCPの随時更新
		災害対応力の強化と危機管理能力の向上	安心安全を見据えた災害対応力の強化と危機管理能力の向上	○	①自衛消防計画・組織の見直し	組織変更や各班ごとの人員配分、キャンパスごとの現状に照らした継続的な計画見直し キャンパスごとに防火防災対策委員会を開催し、訓練実施状況、備蓄品の整備状況、消防計画の諸事項について審議
					②避難訓練等の実施	各キャンパスの状況に則した避難訓練を実施
					③避難所計画の策定	避難訓練にて挙げた課題などを基に、実態に即した内容に更新
④備蓄品の整備	追加及び更新が必要な備蓄品を継続的に整備					
9	教育研究基盤を強化する施設マネジメント	【大学】 増加する学生と進化する授業形態に向けた教育環境の整備・構築	MUSICヘルプデスクによるLMSの活用支援		各キャンパスに支援体制構築	・継続してエムユービジネスサポートに窓口業務を委託 ・ヘルプデスクWEBサイトの充実、チャットボットの機能拡張を実施
			MUSICの機能を拡充する適正なソフトウェア・機器類の確保		授業評価学生満足度	・Microsoft365、GoogleWorkspace等を教員・学生にアカウントを提供 ・Zoomアカウントを教員に提供 ・一部学生にVPN環境を提供 ・Adobe Creative Cloudを希望学生が学生価格で購入 ・統計ソフトウェアSPSSを継続展開
		【大学】 経年劣化の進む施設設備の整備	武蔵野キャンパス施設設備機器の更新		施設設備更新計画達成率	1、6、7、8号館、学友棟LED化
			施設設備機器に関する法令順守(建築基準法、ビル管法、消防法等)		施設設備更新計画達成率	指摘事項があった場合は是正対応を年度内に実施
		【武蔵野中高】 増加する生徒・教員と進化する授業形態に対応する教育環境の整備	進路指導室・自習室・ICT環境等の充実、特別教室等の改修、第二体育館・駐輪場・職員室・講師室の整備等		完工、納品	自習室、第二体育館、駐輪場の整備完了
			【武蔵野中高】 経年劣化の進む施設設備の整備	高校校舎の大規模修繕、中高図書館の建替更新、音響設備更新、応接室及び音楽室の環境整備等		完工
		【千代田中高】 老朽化建物の具体的な計画立案と実行	大講堂及び本館の建替、聞思堂の補修等		完工	大講堂及び本館の建て替えに計画については、学院キャンパス施設等検討委員会にて審議を継続 聞思堂の補修については別途計画を策定し実施
		【千代田中高】 教育環境の整備	売店・ラウンジの設置、ARC用ICT機器の充実、男子更衣室・部室の増設、机・椅子の整備、中学校教室の改修工事(フューチャールーム)等		完工、納品	中学校教室(新館4階)改修工事完了
【千代田中高】 持続可能な教育を実現させる適正な維持管理の実施	施設ごとの改修・更新基準の策定		施設整備計画の策定 点検・診断計画の策定 修繕の優先順位づけ (他部署との連携、計画的なメンテナンスへの復帰)	施設整備計画の継続的な更新		

[法人]

区分	第一次 長期計画	第一期 中期計画	2020年度～2024年度 事業計画	重点 計画	指標	令和5(2023)年度 事業計画
10	DX推進による 本法人の現在 価値の向上や 新たな価値創 出	【法人・設置 校】データとデ ジタル技術を活 用した経営及び 運営の高度化に よる他法人との 差別化	(1) データ等の客観的 根拠に基づく経営及び 運営判断、広報戦略及 び募集戦略の立案 (2) 人材育成等の実施 とシステムを活用した 危機管理体制の整備や 国際的交流の活性化	○	令和4年度中にマ スタープランを策 定予定のため、令 和5年度に指標を 更新予定。	令和4年度中に策定したDXマスタープランに基づき、令和5(2023)年度の中間報告時に更新予定
			(1) 交流・響創の場の 提供	○	・メタバースキャン パスの設立 ・適用現場と適用 パターン	・令和4年度メタバースキャンパス利用トライアル現場に加え、利用現場の拡大を行い実運用を開始 ・外部広報実施 ・本学オリジナルキャンパスデザインの適用、調整、追加作成 ・100周年記念イベントでの利用準備
		(2) MUオープンコース ウェアサービスの提供		・MUデジタルラー ニングサービスプ ラットフォームの 構築 ・オープンバッジ の発行	・利用システム選定、構築 ・配信、発行対象の決定と準備 ・配信トライアル ・オープンバッジ一部発行	
		(3) 学修コンシェル ジュサービスの提供		・ワンストップAI コールセンターの 構築	・利用システム選定、構築 ・運用マニュアル等作成 ・利用トライアル	
		(4) ステークホルダー 関係性醸成のシステム 導入		・入試広報及び受 験見込等入学前段 階での構築	・利用システム選定、構築 ・運用マニュアル等作成 ・利用トライアル	
		(5) 新学生ポータル の提供		・コミュニケー ションポータルの 構築	・Microsoft Teamsの機能整理と確認 ・運用マニュアル等作成 ・利用トライアル	
		(6) SIC施策の効果を高 めるための活動		・SIC取り組み状況 の報告 ・メディア事業 (通信制、リカレ ント教育、生涯教 育、日本語教育) に関するHPの導線 改善	・学内向け特設サイトの継続更新と情報発信 ・導線改善を目的とした大学HP開発	
		【法人・設置 校】各設置校及 び法人のDX推進 を支えるインフ ラ等整備	(1) 情報システム体制 強化 (2) デジタル人材育成 強化 (3) ネットワークイン フラの強化 (4) データベース構 築・整備 (5) 情報ガバナンス・ セキュリティの強化 に向けたマスタープ ランの策定と推進	○	令和4年度中にマ スタープランを策 定予定のため、令 和5年度に指標を 更新予定。	令和4年度中に策定したDXマスタープランに基づき、令和5(2023)年度の中間報告時に更新予定